



## 国際センター通信 (No. 23)

### 日本建設業界にとっての黒船

日本の建設企業に勤務する私の友人たちは、建設産業の将来を懸念しています。国内での公共インフラ投資は減少しているため、日本の建設企業はインフラ開発の需要が高い国外の新興市場へと進出が求められています。しかし、世界で通用する高い技術力があるにも関わらず、日本の企業は国際競争によるプロジェクト獲得に苦戦する傾向にあるのです。

日本の建設企業が国際市場で直面する課題は、日本国内の市場の特異性と関係しています。日本がアメリカの「黒船」により国際交流への扉をこじあけられたのは、わずか160年前のことです。それまで限られた国との交流しか行っていなかったため、当時の日本政府はアメリカとの交渉の際、まずは日本語を中国語またはオランダ語に翻訳し、それから英語へと翻訳していました。その後日本社会は劇的な変化を遂げましたが、日本の建設市場は依然として国際標準から外れ、孤立しているように見えます。



国際センター 情報グループ  
東京大学 Petr Matous

日本の建設企業が遅れをとっていることの一例として、人的資源のマネジメントが挙げられます。高度経済成長期に比べ、建設プロジェクトの数は激減しているにも関わらず、建設企業では高い教育水準を持つ若手技術者の入社が不足していると報告されています。東京大学の社会基盤学科で建設業界への入社を志望している日本人学生は、今年一人もいないかもしれません。一方、同学科からは毎年何十人ものアジアおよび諸大陸出身のトップクラスの技術者が卒業していますが、彼らのほとんどは日本の建設業界で就職先を見つけることができず、国外へ去ってしまうのです。

日本の建設業界で国際的に活躍できる人材が不足していることと、海外での成功が少ないことには関連があると思います。事実上の閉鎖市場という環境におかれ、異なるバックグラウンドの個人や組織と直接的な協力・競争をした経験に乏しい従業員たちにとって、新たな市場への参入は当然ながら難しいことです。世界的に成功している Hochtief (ホッホティーフ・ドイツ) や Skanska (スカンスカ・スウェーデン) といった企業では、自国の市場でも中東や東ヨーロッパと同様のシステムで、同様に他社と競合しています。国内外での激しい競争の中、プロジェクトを獲得し管理できる優秀な社員がドイツ人、あるいはスウェーデン人である必要がないのは言うまでもありません。

海外での成功には、自国の扉を開くことが必要不可欠です。変化には混乱や摩擦がつきものですし、縮小しながらも安定した日本の建設市場の現状に慣れている既存の出資者たちは不安をおぼえるかもしれません。しかしながら、日本の建設産業にはオリンピック後にも続く未来があること示すような改革をしなければ、若い日本の学生は金融や経営コンサルティングなど国際的な厳しい競争にさらされながらも人気のある、他の業種を就職先に選ぶでしょう。

日本の建設企業が世界で成功するためには外国人の人材を受け入れなければなりません。外圧によって日本に変化をもたらした黒船とは異なり、土木学会国際センターは、日本の土木工学コミュニティが自身の力でこの差し迫る状況に取り組むためのものです。日本の建設企業が外国人エンジニアに門戸を開き、世界中の土木工学界と日本の建設業界に大きく貢献するためにも、国際センターの役割は大変重要であると思います。

## 世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ 第2回シンポジウム開催

2014年8月5日に土木学会国際センター主催の“世界で活躍する土木技術者シリーズ”第2回シンポジウム「フーバーダムバイパス コロラドリバー橋」を開催しました。

本シンポジウムでは、日本の建設企業による海外大型プロジェクトが、当該国のみならず広く評価されている現状をとらえ、日本の土木技術および土木技術者の活躍を広く知っていただき、また将来の日本を担う若者たちにインフラ整備の意義や海外での仕事などを伝えるため、海外プロジェクトと、そこで活躍する土木技術者の紹介を行っております。

今回のシンポジウムは河原土木学会副会長の開会挨拶に始まり、前半は基調講演として、本プロジェクトにおいて第8回産学官連携功労者表彰を受賞された東京工業大学大学院の二羽淳一郎教授によるご講演のほか、本プロジェクトの発注者として当時プロジェクトマネージャーを務めた元米国連邦高速道路局の Dave Zanetell 氏からのビデオレターの紹介が行われました。また後半は実際にプロジェクトを遂行された大林組の福本勝司氏、定松道也氏、高德裕平氏の3名の土木技術者の方々からプロジェクトの概要をはじめ、ご担当された工事についてエピソードを交えながらご講演をいただきました。土木技術者としての視点からプロジェクトに携わった経験や苦労、そしてこれから活躍する若者へのアドバイスなど貴重なお話を頂戴しました。今回のシンポジウムには120名を超える参加をいただき、質疑応答では活発な意見交換が行われるなど、たいへん盛会でした。



二羽教授の基調講演



Dave Zanetell 氏からのビデオレター

国際センターでは“世界で活躍する土木技術者シリーズ”として今後も継続的に海外プロジェクトを対象としたシンポジウムを実施する予定です。第3回では清水建設のパハン・セラングール導水トンネルをご紹介します。開催時期等につきましては、土木学会 HP 上にてご案内いたします。

【記 土木学会国際センター】

## 台湾分会だより

台湾分会は、2000年4月に土木学会で最初の海外分会として設立されました。分会長は初代が陳振川 (Jenn-Chuan Chern) 氏で、謝季寿 (Chi-Shou Hsieh) 氏、周禮良 (Lie-Liung Chou) 氏、施義烈 (Yih-Lieh Shih) 氏、李徳河 (Der-Her Lee) 氏、陳景文 (Jing-Wen Chen) 氏の順で、幹事長は許鎧麟 (Kai-Lin Hsu) 氏、柯武徳 (Wu-Te Ko) の順です。毎年の全国大会の際に開催される海外分会会議には台湾分会は皆勤です。

分会のメンバーは日本の大学を卒業した台湾人の技術者か学者や台湾に駐在している日本人技術者のみならず、台湾人の技術者や土木行政の大臣・副大臣も分会のメンバーになっています。2000年から2008年頃までは台湾にビッグプロジェクトが多かったために分会のメンバーが40人を超えていましたが、近年は20人台になっています。

当分会は日台土木業界の架け橋となるべく努力しています。土木学会など日本からの台湾への訪問・調査団受け入れのための手配およびご案内、日本の土木技術の台湾への紹介、「土木学会誌」等への台湾土木の現状・戦前の日本土木技術の台湾への貢献・日本建設企業の台湾での施工に関する現状分析に関する取材・記事の執筆および翻訳をしています。台湾から日本への訪問・調査団受け入れのための斡旋もしています。また、日・台間シンポジウムを実施しております。韓国分会との交流も行っています。今後は他の分会との交流もしたいと考えております。



2008年9月3日～4日  
台日歴史都市防災シンポジウム (台南市)



2012年8月24日～25日  
日韓台ジョイントセミナー (熊本市)

【記：台湾分会幹事長 柯 武徳】

### イベントカレンダー

- 2014/9/10・・・第16回国際ナショナル サマーシンポジウム (大阪 - 大阪大学)  
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/56>
- 2014/9/10・・・平成26年度全国大会開催研究討論会「日本の留学で学んだことー海外で活躍する元留学生からのメッセージ」(大阪 - 大阪大学)  
※討論会の中で、座談会「先輩に学び、後輩に伝える私たち」を開催します。  
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/59>
- 2014/9/10～13・・・国際若手技術者ワークショップ&テクニカルツアー (13日) (大阪 - 大阪大学)  
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/57>
- 2014/9/13・・・第8回災害リスク管理に関するジョイント国際シンポジウム (神戸 - 神戸大学)  
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/66>

- 2014/10/7～11・・・アメリカ土木学会（ASCE）年次大会（パナマ共和国 - パナマ市）  
<http://content.asce.org/conferences/annual2014/>
- 2014/10/22～24・・・大韓土木学会（KSCE）年次大会（韓国 - 大邱市）

## お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の website（英語版）にアップしました。  
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 38 が発行されました。  
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>
- ◆ 土木学会創立 100 周年記念切手が 9 月 1 日に発行されます。  
<http://jsce100.com/node/250>

## 購読申し込み

国際センター通信購読の申し込みは以下の URL よりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・ 日本語版 : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・ 英語版 : (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

## ◆掲載記事募集します◆

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は 800 字程度で和文または英文でご投稿ください。

記事投稿の詳細はコチラ>>> (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>)

## 編集後記

今年の夏休みはいかがでしたでしょうか？今年の夏は、大雨による土砂災害など自然の猛威にふれた夏でもありました。

今回は、Petr Matous 先生に日本の建設業界の国際化についての原稿をお書きいただきました。急なお願いにもかかわらず、快くお引き受けいただきまして、誠にありがとうございました。日本の土木技術や土木技術者を海外に輸出するだけでなく、日本国内においても海外からの技術者の受け入れ態勢を整えていかなければ、真の国際化は難しいと思いました。(S.K)

【ご意見・ご質問】 : JSCE IAC: [iac-news@jsce.or.jp](mailto:iac-news@jsce.or.jp)

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

